秋田県皆瀬川上流 木地山付近の地形

田辺 健一・水野 裕

雄物川の支流皆瀬川上流の小安温泉西方に、こけしで有名な木地山を中心に、標高 300～600m の高原状の地形が広く展開する。地質は石英安山岩および同質凝灰岩が下部の中新世に属する三途川層(板状砂岩凝灰質泥岩)を覆っている。三途川層は宮城県鬼首盆地の赤沢層や宮沢層に対比される中新世最上部の湖成層とされている(加藤・島田 1953)。このような地質で構成された高原状の地域に (i) 桁倉沼・田螺沼・板戸沼・貝沼等の湖沼や凹陷地、(ii) その周辺の流れ山状の小丘群、(iii) 兜山周辺の岩塊流、などの特殊な地形群がみられる。これらの地形に関する報告は吉村信吉(1935)による湖沼学的研究があるにすぎない。筆者等は 1965 年 9 月、2 日間の概査を試みた。

湖沼・凹陷地および小丘群の分布は三途川層地域に限られるが、配置は全く不規則で、湖沼の深さも 4～21m と浅く、小丘の比高も 10～20m である。小丘の内部構造や湖沼の背後の急崖の存在、NW-SE 方向の地質的断層系の存在から考えて、大規模な地じりや山崩がこの成因と考えられる。

兜山の北および東には上述の小丘群の上に、新しいが現成とは思えない、岩塊流がある。これは兜山の東部と北部に露出する石英安山岩の柱状節理から供給されたものであることは明瞭であり、兜山北方の岩塊流の先端は貝沼の南岸にまで達し、岩塊の最大径は 10m 以上もある。

兜山北東方の地じり・山崩れによる押しし地形は皆瀬川の河岸段丘を被覆しており、さらにその上に岩塊流が来ていることは、それらの時代決定と気候変化の時期の関係などの問題を提

供するものであって、甚だ興味のある地形と思われる。

(1966. 9. 27 受理)

加藤磐雄・島田昱郎(1953): 栗駒火山西麓緑色凝灰岩相地域の地質および特に三途川・鬼首盆地の湖成堆積層について 岩鉱 37 178～190

吉村信吉(1934): 秋田県雄勝郡桁倉沼、貝沼湖群の湖沼学的予察研究 地評 10 667～687, 787～798

Topography of the Kijiyama Highland, Akita Prefecture

Ken-ichi TANABE and Yutaka MIZUNO

There are six small lakes and many hillocks in the Kijiyama Highland, 300-600 m above the sea level in the southeastern part of Akita prefecture. These lakes and hillocks were formed by an ancient landslide in the area of the Miocene Sanzugawa lacustrine deposits. To the south of Lake Kainuma, boulders are flown down the northern and the eastern slopes of Mt. Kabuto (669.8 m) (arrows in illustration), covering the landslide materials. Landslide materials and boulders cover the terraces of the Minase river. These relation presents an interesting problem on the paleoclimatology of the area.